

平成24年度 事務事業マネジメントシート

事業名	障害者福祉施設サービス整備検討事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O4	4節 誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	障害者支援課				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり	主管課長	増田 恒夫				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市民（障害児・者）	意図	障害者が地域で自立した生活を送るために必要な施設サービスについて検討することで、法や制度に沿ったサービス体系を構築し、流山市の障害福祉の向上を目指す。
事業内容	今後、必要とされる障害者福祉施設の整備を検討します。			
事業開始から現在までの状況変化	平成18年以降障害者自立支援法による福祉サービス制度が整備され、旧体制から新体制への移行が進められた。主に小規模作業所等から地域活動支援センターⅢ型や就労継続支援B型への移行が行われ、障害児施設（児童デイつばさ）の充実も図られた。また、柏市内に建設予定の重度心身障害者施設設置について検討が行われている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成22年度	平成23年度	平成24年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	地域活動支援センターⅢ型事業所		4	3	
②	就労継続支援B型事業所		6	8	数	↑↑↑	
③	自立訓練（生活訓練）事業所			1	数	↑↑↑	
④	就労移行支援事業所			1	数	↑↑↑	
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成22年度までに市内の作業所がすべて地域活動支援センターⅢ型に移行がおわった。更に就労継続支援B型事業所等の促進を図っている。また、障害児通所施設のつばさ学園の充実を図り、児童デイサービスつばさを平成23年10月に建設した。流山市指定管理施設「さつき園」が平成24年4月1日から就労継続支援B型事業所になり、「南天の木」が平成24年4月1日から地域活動支援センターⅢ型から就労継続支援B型に移行した。また、新たに自立訓練（生活訓練）と就労移行支援を実施する多機能型事業所「マール」が平成24年6月1日から事業を開始した。		
事務事業の総コスト(a=b+c)							
事業費(b)(円)							
うち一般財源							
職員給与費(c)(円)							
人役・職員(人)							
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた	
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である	
総合評価		I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					
		コストの削減					C 削減の余地が大きい

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H24)の改善計画	福祉作業所や地域活動支援センターⅢ型から就労継続支援B型等の促進を図る。
②今年度(H24)に実施した取り組み	平成24年4月1日からさつき園と南天の木が就労継続支援B型事業を開始した。

③取り組みの課題	サービスを利用する全障害者に義務付けられた計画相談支援について、指定特定相談支援事業所を平成26年度末までに増やす。また、福祉サービスを利用していない障害者に対する相談支援の窓口である一般相談支援事業所の整備が必要。
④今後の改善計画	つばさ学園の児童発達支援センター化について庁内での協議を継続。重症心身障害児等施設整備について関係市と検討調整を進める。今後、相談支援体制の確保のため、自立支援協議会も含め検討していく。